

環境経営レポート

2023

活動期間

2023 年 4 月 1 日～2024 年 3 月 31 日

発行：2024 年 8 月 31 日

KOBELCO

神鋼ボルト株式会社



目次

	page
1. 組織の概要	P.2
2. 認証・登録範囲	P.2
3. 環境経営方針	P.3
4. 環境マネジメント組織図	P.4
5. 環境経営目標及び実績	P.5 ~ P.7
6. 環境経営計画の内容と結果の評価及び今後の取組み	P.8 ~ P.10
7. 2024-2026 年度 中期目標	P.11
8. 環境関連法規等の遵守状況の確認	P.12
9. 代表者による全体評価と見直し結果	P.13

1. 組織の概要

事業者名

神鋼ボルト株式会社

所在地

本社工場 千葉県市川市二俣新町 17

名古屋営業所 名古屋市西区名駅 2-27-8 名古屋プライムセントラルタワー 15 F

大阪営業所 大阪市中央区北浜 2-6-18 淀屋橋スクエア 14 F

福岡営業所 福岡市博多区博多駅中央街 1-1 新幹線博多ビル 6F

代表者

代表取締役社長 坂田 宏之

環境管理実施責任者及び環境管理推進責任者

実施責任者： 取締役製造部長 川端 恒徳

推進責任者： 業務部長 杉村 明

事業規模・活動 および 2023 年度事業活動実績

設立年月：1970 年 3 月

資本金：465 百万円 売上高：6,699 百万円

事業活動：建築・土木（橋梁）用高力ボルト・ナット・平座金のセットの製造・販売

従業員及び敷地面積等（2024 年 3 月 31 日時点）

	本社及び工場	名古屋営業所	大阪営業所	福岡営業所
従業員 人	77	3	3	2
床面積 m ²	10,344	28	59	14
敷地面積 m ²	17,607	--	--	--

環境負荷情報（年間使用量または排出量に係る項目）

分類・項目			使用量/排出量	分類・項目			使用量/排出量
エネルギー 使用量	電力量	本社及び工場	4,193,113 kwh	エネルギー 使用量	フォーク燃料HD油	16,335 ℓ	
		名古屋営業所	1,162 kwh	廃棄物排出量	CO2換算総量	3,661 t	
		大阪営業所	9,236 kwh		可燃物	10,940 kg	
		福岡営業所	1,716 kwh	産業廃棄物	213,310 kg		
	都市ガス	924,100 m³	水使用量	上水	3,127 m³		
	ガソリン	678 ℓ		工業用水	6,515 m³		
	灯油	4,496 ℓ		化学物質使用量	165 ℓ		

2. 認証・登録の範囲

認証・登録番号 0001865 認証・登録年月日 2007/09/20

認証・登録事業社名 神鋼ボルト株式会社

対象事業所名 本社工場、名古屋営業所、大阪営業所、福岡営業所

本社所在地 千葉県市川市二俣新町 17

事業活動 建築・土木（橋梁）用高力ボルト・ナット・平座金のセットの製造・販売



3. 環境経営方針

環境経営方針

神鋼ボルト株式会社は、高力ボルトの生産を中心とした事業活動において、消費するエネルギーについては、使用効率をより高める設備改善を、資源については、工程内で使用する原料のミニマイズ化による資源の有効活用や環境に配慮した製品づくり等、種々の活動を行っています。

この環境保全活動を「健全な地球環境を次世代に引き継ぐ事が私たちの使命である」と強く認識し、今後も事業活動のあらゆる面で「環境への貢献」をスローガンに、環境に配慮して行動する事を決意し、全員参加により下記の取組みを継続的に推進していきます。

1. 環境に関する法規制を遵守する

1) 水質汚濁防止法、2) 廃棄物処理法、3) 省エネルギー法、4) 各種リサイクル法 等

2. 省エネ・省資源などの環境負荷を低減する活動を推進する

1) 省エネルギーの推進

①エネルギー原単位の向上（電力、ガス）

2) 資源の有効活用

①節水の推進 ②リサイクル品の購入

3) 廃棄物の削減

①可燃物の削減 ②購入品の環境配慮品切り替え ③通い缶の使用

4) 従業員への教育、訓練

①節電、節水、省資源、廃棄物の分別、油流出防止、化学物質適正管理

②5S 活動（整理・整頓・清潔・清掃・躰）

5) 高品質・安定生産によるお客様満足度向上

①生産・検査設備の予防保全活動による不良休止低減

②安全・安心な製品の安定供給

3. 地域清掃活動などを通じて環境共生社会の実現に取り組む

1) 社外ボランティア活動推進（地域の清掃活動等）



制定日 2006 年 4 月 1 日

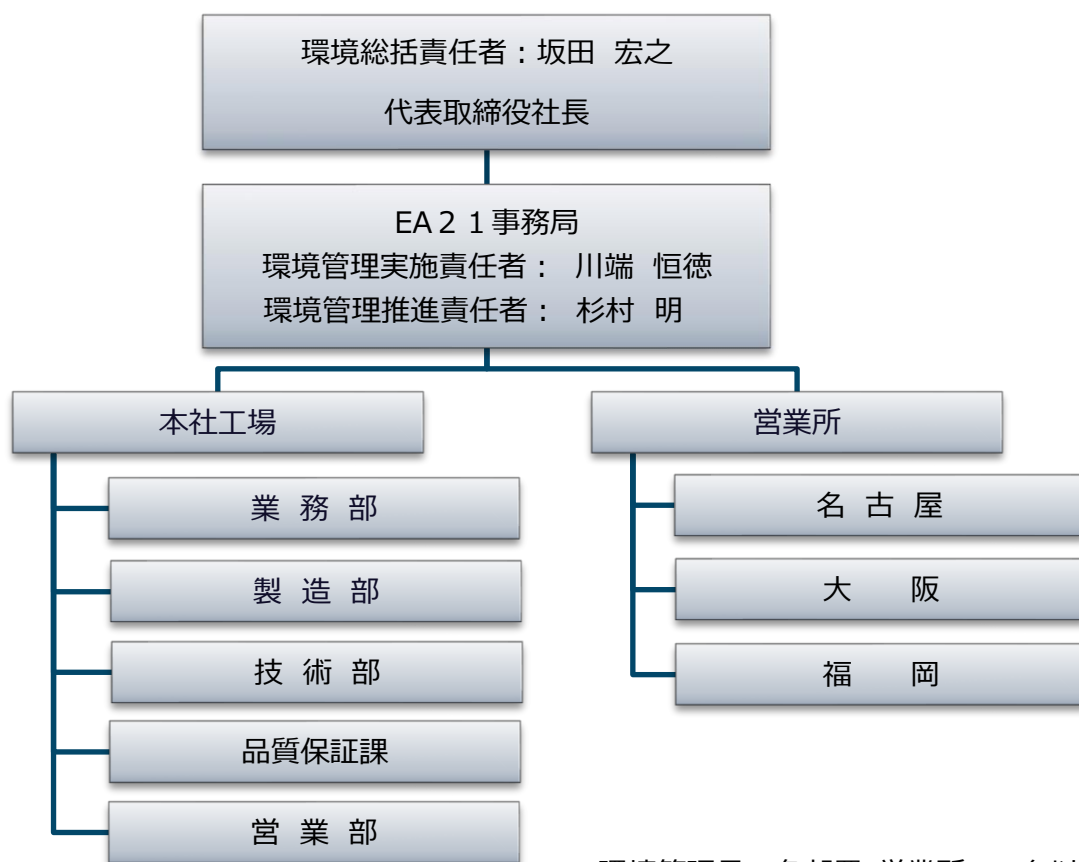
改正日 2024 年 4 月 1 日

神鋼ボルト株式会社

代表取締役社長

坂 田 宏 之

4. 環境マネジメント組織図



※ 環境管理員：各部署・営業所：1名以上配置

役割、責任及び権限

名称		主な責任と権限
環境総括責任者		・当事業所の環境に関する最終的な責任を負う。 ・環境経営方針の制定・改定、環境管理実施責任者の任命、代表者による見直しの実施
事務局	環境管理実施責任者	・環境システムの構築・維持の責任を持つ。 ・環境影響項目の評価、目的・目標及び計画の承認、法的要求事項の対応、安全衛生環境委員会の委員長
	環境管理推進責任者	・環境委員会の委員として下記事項の責任を持つ。 ・環境活動計画及び実施、環境不適合への是正・予防処置対応、外部情報窓口
環境管理委員		・環境改善実施担当として下記の責任を持つ。 ・担当の環境影響項目の評価 ・環境活動計画の推進実施・報告

5. 2023 年度 環境経営目標及び実績

項 目	管理指標	(単位)	22 年度	23 年度		
			実績	目標	実績	評価
①CO2 発生原単位の削減	平均原単位	(kg/t)	220	220	202	◎
電力使用原単位の削減	平均原単位	(KWh/t)	236.3	239.5	231.6	○
都市ガス使用原単位の削減	平均原単位	(m³/t)	50.9	49.9	51.0	○
営業所使用 電力量の削減	名古屋	年間総量	(KWh)	1,099	1,434	1,162 ◎
	大阪	年間総量	(KWh)	9,439	9,771	9,236 ◎
	福岡	年間総量	(KWh)	1,880	2,134	1,716 ◎
CO2 総量 ※1	年間総量	(t)	3,834	3,724	3,661	○
②廃棄物排出 原単位の削減	可燃物	平均原単位	(kg/t)	0.66	0.63	0.60 ○
	産廃物	平均原単位	(kg/t)	10.8	12.1	11.8 ○
③水使用 原単位の削減	上水	月間総量	(m³)	273	218	261 × ※2
	工業用水	平均原単位	(m³/t)	0.369	0.427	0.360 ◎
④化学物質使用 原単位削減	ボルト圧造油	平均原単位	(ℓ/t)	1.14	1.06	1.07 ○
	鋼材潤滑油	平均原単位	(ℓ/t)	0.20	0.24	0.21 ◎
⑤環境に配慮した 生産活動	改善件数	年間件数	(件)	5	5	※3 9 ◎
⑥5S 活動推進	90 点以上	平均点数	(点)	95.0	90 以上	96.5 ◎
⑦地域との共生	地域清掃 活動参加	年間回数	(回)	0	1	1 ○

二酸化炭素調整後排出係数(2022 年度) (単位: 電力 kg-CO2/kWh、都市ガス kg/m3)

本社: 電力/東京電力Iヶ-パ-ト-0.376、都市ガス/2.19

名古屋: 中部電力/0.459、大阪: 関西電力/0.434、福岡: 九州電力/0.475

注記

※1 ガソリン、灯油、フォークリフト燃料を含みます。(生産増によって CO2 排出量は増加)

※2 漏水による一時的な増加。23 年 9 月対策工事済み

※3 ・22 年度からの継続活動 (5 件)

①油煙低減活動

②潤滑油削減活動

③工程合理化によるトラック運搬回数削減

④流量計設置による電力・瓦斯・上水・工業用水の使用量管理の強化

⑤雨水対策による製品廃却量(鋳要因)の低減

・23 年度に新たに取組んだ活動 (4 件)

⑥工場照明 LED 化拡大による電力の削減

⑦熱処理工場 クーリングタワー水槽 温度センサー設置 (ファンの稼働自動化) による電力の削減

⑧遠隔地向け製品輸送のモーダルシフト (トラック輸送 ⇒ 鉄道、海上輸送) による CO2 排出量の削減

⑨水栓自動化による上水の削減

◎ : 目標達成 +5%超

○ : 目標達成 ±5%以内

△ : 目標未達 ▲6~▲20%

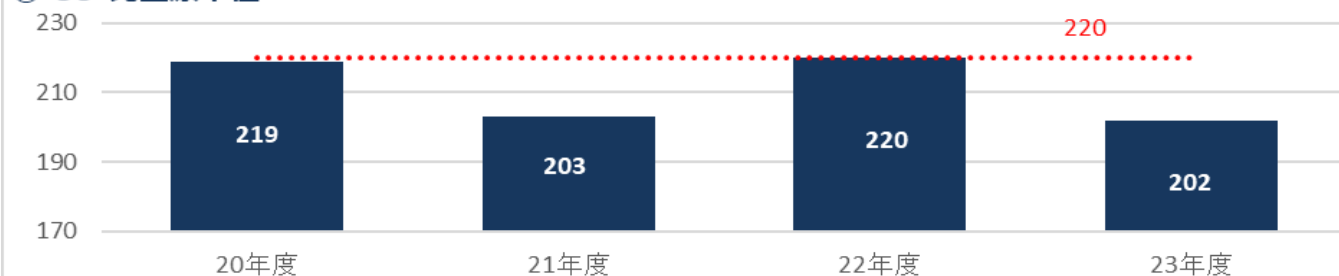
× : 目標大幅未達 ▲21%以上

<2020～2023 年度実績推移（1／2）>

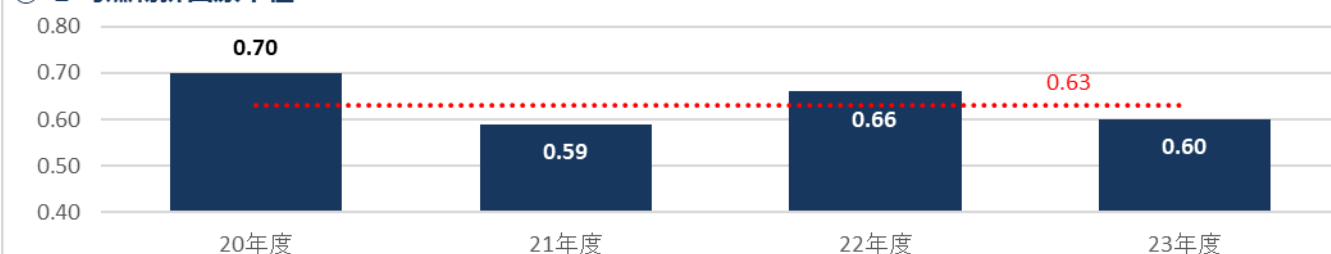
■ 実績

・・・目標値（2023年度）

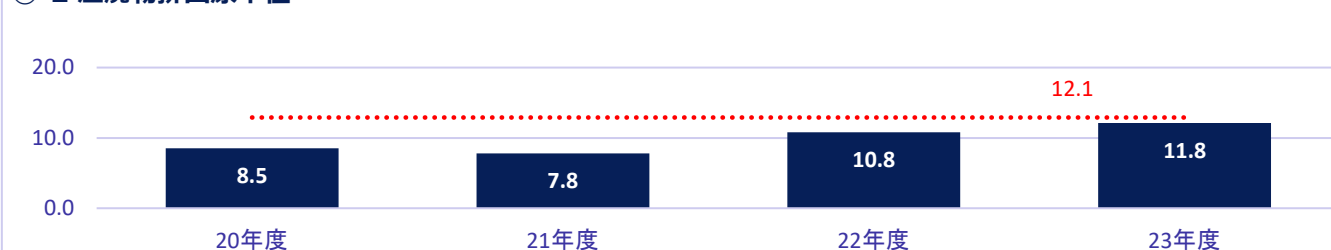
① CO₂発生原単位



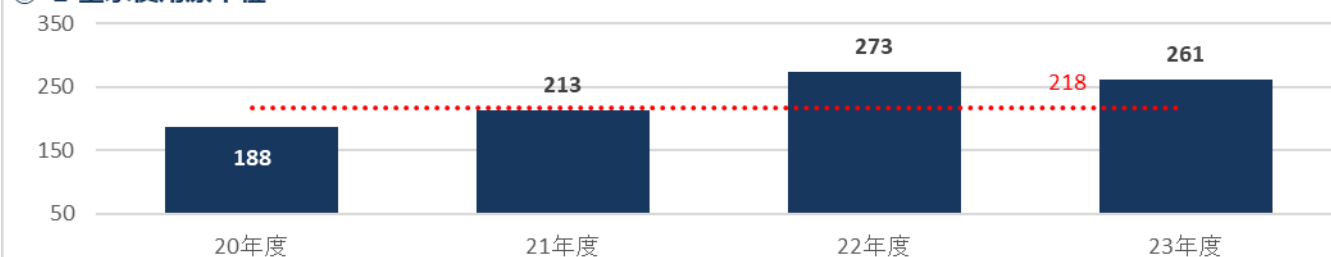
②-1 可燃物排出原単位



②-2 産廃物排出原単位



③-1 上水使用原単位



③-2 工業用水使用原単位



<2020～2023 年度実績推移（2／2）>

■ 実績 …… 目標値（2023年度）

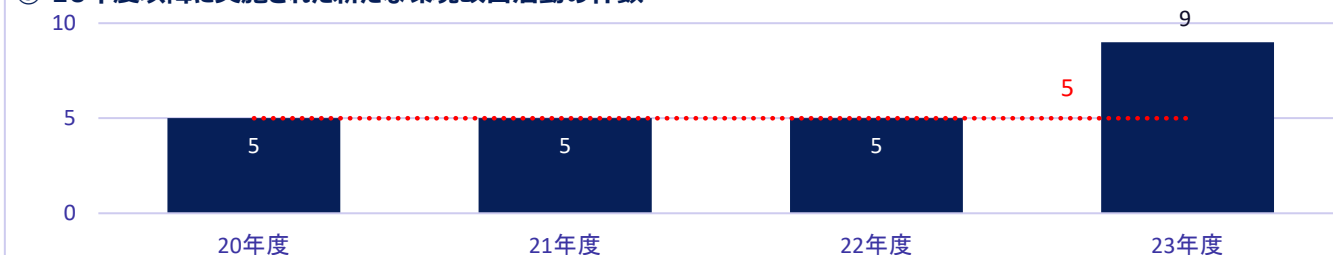
④-1 ボルト圧造油使用原単位



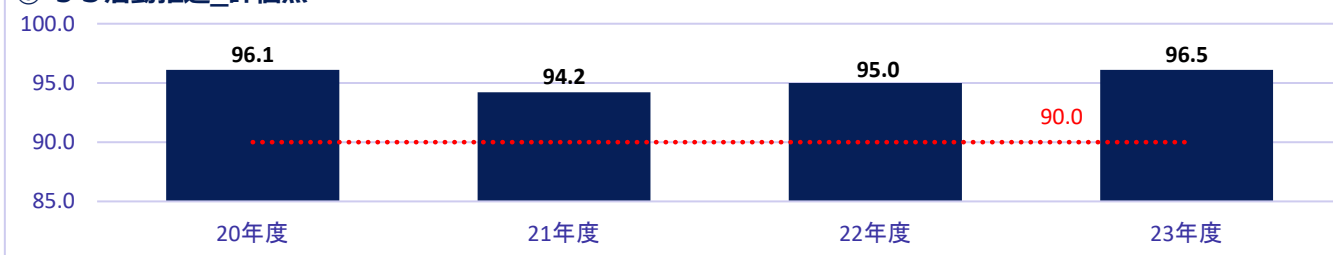
④-2 鋼材潤滑油使用原単位



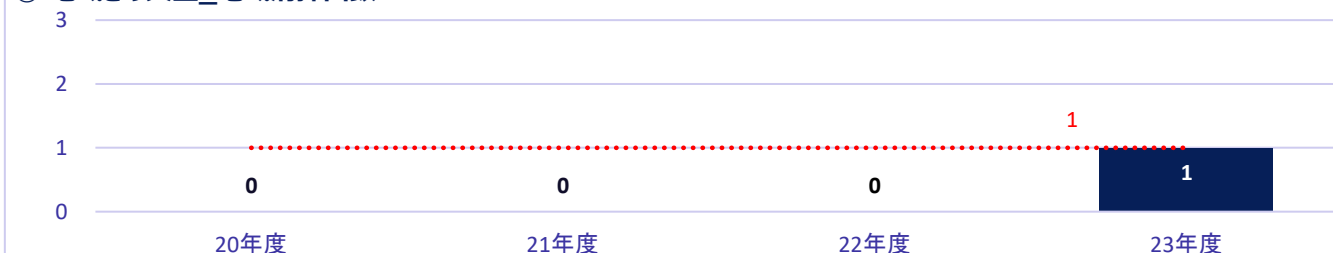
⑤ 10年度以降に実施された新たな環境改善活動の件数



⑥ 5 S活動推進_評価点



⑦ 地域との共生_地域清掃回数



6. 環境経営計画の内容と結果の評価及び今後の取組

赤字は 2023 年度の新たな取組み

取組み項目		活動内容	評価	次年度の取組み
① 二酸化炭素削減	電力原単位の削減	・効率稼働（設備メンテナンス改善）	○	左記の取組を継続する。
		・ 更なる工場照明 LED 化の推進 と空調設備の見直し活動の継続		
		・ 熱処理工場 クーリングタワー水槽 温度センサー設置 、人感センサーや調光コントローラー導入による電力の削減		
		・遮熱塗装や送風機等を利用した空調効率化		
	都市ガス原単位削減	・効率稼働と設備故障防止（再熱処理削減）	○	左記の取組を継続する。
	省エネ活動・省資源化の推進	・ 遠隔地向け製品輸送のモーダルシフト（トラック輸送 ⇒ 鉄道）	◎	左記の取組を継続する。
		・アイドリングストップ（社用車など）		
		・事務所 室温コントロール（目標 冷房 28℃、暖房 20℃）		
		・Web 会議システム導入による出張回数の削減		
		・省エネ商品への切換え（遮熱等）		
		・環境負荷監視体制の整備（流量計設置）		
		・省資源化の推進（錆発生による廃却量の抑制）		
② 廃棄物削減	可燃物削減	・コピー用紙使用削減（両面印刷化、回覧物の削減）	○	左記の取組を継続する。
		・ごみの分別回収 新聞回収		
		・リサイクルウエス使用		
		・デジタル記録計導入に伴う記録用紙の削減		
	産業廃棄物の削減	・廃棄物の分類（分別の徹底、有価物は販売）	○	

取組み項目		活動内容	評価	次年度の取組み
③ 節水	上水	・23 年度は漏水により一時的に使用量が増加（23 年 9 月補修完了） ・環境負荷監視体制の整備（流量計設置） ・事務所手洗い場の自動水栓化	×	左記の取組を継続する。
	工業用水	・冷却水の循環利用による節水を実施 ・環境負荷監視体制の整備（流量計設置）	◎	左記の取組を継続する。
④化学物質使用 原単位削減		→ボルト加工用油の使用量削減(油の回収再利用[製品の油切])の継続	◎	化学物質については使用量が僅少であるため、適正管理に努め、回収再利用を実施する。
		・22 年度より「鋼材潤滑油」の使用原単位の実績管理を開始。23 年度も継続	○	
⑤環境に配慮した 生産活動		・22 年度までの継続案件 5 件と、23 年度に新たに追加した改善活動 4 件の計 9 件を実施（P5 参照）	◎	左記の生産に配慮した生産活動を継続する。
⑥ 5 S 活動		・2 回/月のチェックシートによる採点評価を継続。安全衛生環境委員会で更なる改善を促進	◎	左記の取組を継続する
⑦地域との共生		・コロナウイルス感染症の収束に伴い市川港開発協議会の地域ボランティア活動を再開（2024 年 11 月 7 日実施）	○	左記の取組を継続する。

◎：目標達成 +5%超
 ○：目標達成 ±5%以内
 △：目標未達 ▲6～20%
 ×：目標大幅未達 ▲21%以上

<2023 年度 対策活動のご紹介>

1. 二酸化炭素削減

① 工場照明 LED 化の適用範囲の拡大 ～電力原単位の削減～

特殊品製品倉庫の蛍光灯（85W）の LED 化を実施（特殊品倉庫内で約 57%電力低減）。
 照明の LED 化は本社・工場全体の 95%まで完了（22 年度は 90%）。
 水銀灯は全廃した

② 熱処理工場 クーリングタワー 温度センサー設置 ～電力原単位の削減～

2023 年 12 月に熱処理工場クーリングタワーの水槽に温度センサーを設置。
冷却ファン起動/停止の自動化により、使用電力の削減（▲2.2KWh/t）を実施。

- 参考：クーリングタワー水槽温度センサー



③ 遠隔地への製品輸送の鉄道輸送化 ～モーダルシフトによる CO₂削減～

2023 年 10 月より、北海道、関西への製品輸送方法を変更（全体出荷量の 5%）。
輸送の効率化による二酸化炭素の削減を実施

- ・ 鉄道コンテナ化（北海道、関西）… 北海道・関西向け出荷量の 57%

- 参考：鉄道コンテナ輸送（当社出荷風景）



2. 節水

事務所手洗い場の水栓自動化 ～上水～

23 年 12 月に事務所手洗い場の水栓の自動化によって節水を実施。

- 参考：自動水栓（本社事務所 2 階）



7. 2024-2026 年度 中期目標

項 目		指標	(単位)	基準期間	基準期間 平均値	24 年度	25 年度	26 年度	※1
① CO2 発生原単位の削減		平均 原単位	(kg/t)	21-23 年度 平均原単位	208	207	203	198	－
電力使用原単位の削減		平均 原単位	(KWh/t)	21-23 年度 平均原単位	231.6	242.1	236.9	231.3	A
都市ガス使用原単位の削減			(m³/t)	21-23 年度 平均原単位	51.0	51.1	50.1	49.3	C
営業所使用電力量 削減	名古屋	年間 総量	(KWh)	23 年度 年間総量	1,162	1,162	1,162	1,162	B
	大阪				9,236	9,236	9,236	9,236	B
	福岡				1,716	1,716	1,716	1,716	B
CO2 総排出量		年間 総量	(t)	21-23 年度 平均年間総量	3,847	3,283	3,415	3,562	－
② 廃棄物排出原単位の 削減	可燃物	平均 原単位	(kg/t)	23 年度 原単位	0.60	0.69	0.65	0.61	B
	産廃物	平均 原単位			11.8	12.7	12.7	12.7	B
③ 水使用原単位の削減	上水	月間 総量	(m³)	23 年度 月間総量	261	229	229	229	B
	工業用水	平均 原単位	(m³/t)	21-23 年度 平均原単位	0.347	0.333	0.315	0.298	A
④ 化学物質の適正管理	PRTR 法 該当物質	－	(ℓ)	－	－	データ把握 適正管理	データ把握 適正管理	データ把握 適正管理	－
⑤ 環境に配慮した生産 活動	改善件数	年間 件数	(件)	23 年度 累計実績	9	10	11	12	－
⑥ 5S 活動推進	90 点以上	平均 点数	(点)	23 年度 目標値	90 以上	90 以上	90 以上	90 以上	－
⑦ 地域との共生	地域清掃 活動参加	年間 回数	(回)	23 年度 実施回数	1	2	2	2	－

※1：基準値、および目標設定の考え方 （CO₂排出量は 2022 年度排出係数にて算出）

A：21-23 年度の平均原単位を基準値とし、24-26 年度の生産計画量から目標値を設定

B：23 年度実績を基準値として目標を設定

C：21-23 年度の平均原単位を基準値として、24-26 年度の生産計画量から目標値を設定
さらに、25-26 年度については、熱処理炉の更新による CO₂の削減▲0.5%を計画

8. 環境関連法規等の遵守状況の確認

1) 主たる環境関連法規

以下の法令を 2023 年度遵守されていることを確認した。

	該当施設・機器・該当する活動 順守すべき内容	遵守状況
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	・一般廃棄物の排出； 委託の基準 ・産業廃棄物の排出； 保管の基準、委託の基準、マニフェストの交付と管理	○
市川市環境保全条例	・産業廃棄物管理票の交付等報告書の提出 ・廃棄物の適正管理	○
水質汚濁防止法 市川市環境保全条例	・特定施設； 焼入れ施設 ・排水規制値の順守 ・事故時の処置	○
公害防止組織の整備に関する法律	・騒音施設(鍛造機)(騒音規制指定地域内) ・公害防止統括者及び公害防止管理者の選任、変更時	○
浄化槽法	保守点検と清掃 * 水質定期検査	○
市川市環境保全条例	* 特定施設；加熱炉	○
騒音規制法 市川市環境保全条例	* 特定施設； 機械プレス・せん断、鍛造機、空気圧縮機、排風機、騒音規制基準の遵守	○
消防法（危険物管理）	* 対象；第 4 類 軽油、灯油、潤滑油 屋内貯蔵所、少量危険物の届出	○
省エネ法 温対法	* 第 2 種エネルギー管理指定工場 ・エネルギー使用の合理化努力 ・エネルギー管理員の選任義務 ・エネルギー使用状況の定期報告	○

2) 違反、訴訟等の有無

過去 3 年間、環境関連法規への違反やその他違反、訴訟等はありません。

9. 代表者による全体評価と見直し結果

弊社は、エコアクション 21 を取得して 17 年が経過しました。

昨年度も、従来の環境改善活動の継続と新たな取組みにより、設備不良のあった一部を除き目標を達成することができました。

今年度も引続き安定生産に努めるとともに、環境改善活動を更に推し進め、環境経営目標を達成できるよう、全社一丸となって取り組んでいきます。



2024 年 8 月 31 日
神鋼ボルト株式会社
代表取締役社長

坂 田 宏 之